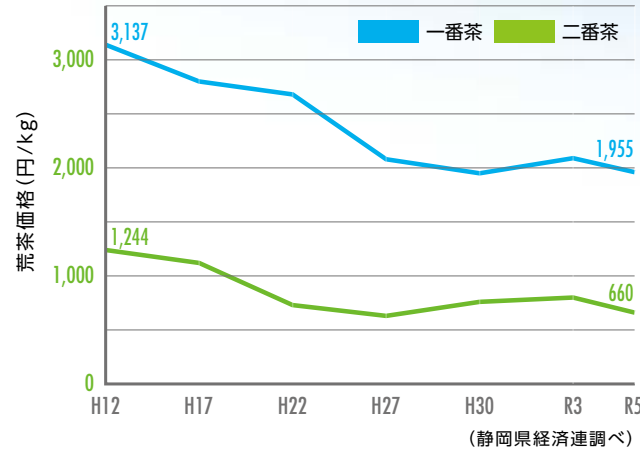


データで見る静岡茶業のアレコレ

荒茶単価

20年前に比べ2/3～半値に

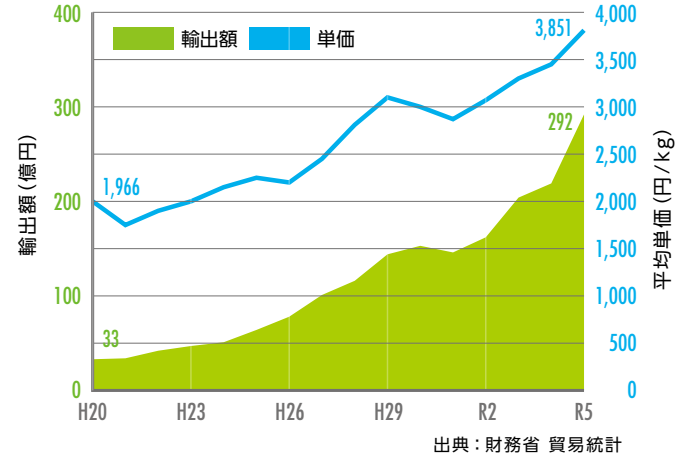
荒茶価格の推移(静岡県)



緑茶の輸出動向

順調な伸び 4年連続で過去最高を更新

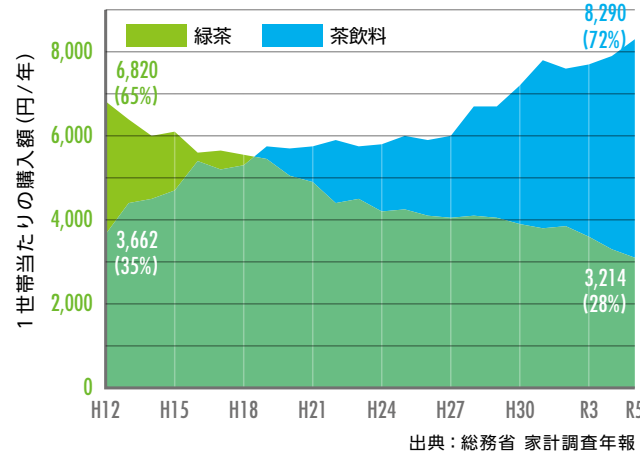
緑茶の輸出額、単価の推移(全国)



家庭用における消費動向

ペットボトルの需要が拡大

1世帯当たりの茶の支出額の推移(全国)



全国と県内の茶産出額

静岡県が全国トップ、掛川市は県内3位

県内の茶産出額
令和4年度(抜粋)

牧之原市	44億円
島田市	42億円
掛川市	31億円
菊川市	27億円
静岡市	20億円
富士市	15億円
磐田市	13億円

出典: 農林水産統計

全国の茶産出額
令和4年度(抜粋)

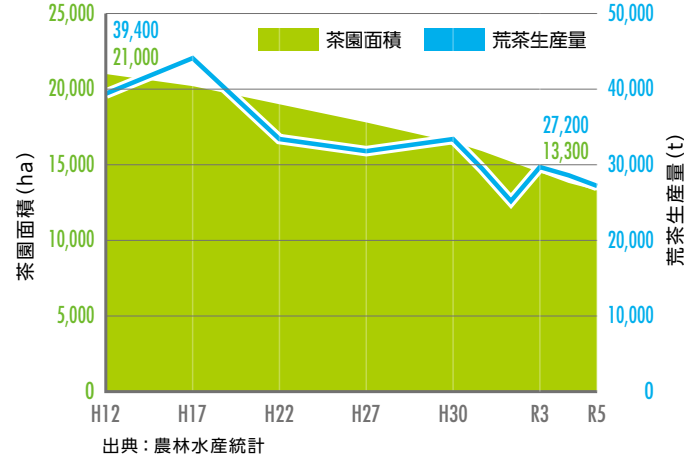
静岡	244億円
鹿児島	234億円
京都	72億円
三重	53億円
福岡	35億円
宮崎	24億円

出典: 農林水産統計

荒茶生産量

茶園面積も生産量も年々減少

茶園面積、荒茶生産量の推移(静岡県)



グラフを見ると茶業情勢が変化しているのが分かります。家庭では茶飲料の購入額が増加していますが、荒茶価格や生産量、茶園面積は減少。一方で、緑茶の輸出額は4年連続で過去最高を更新し、海外需要の高い有機茶への期待が高まっています。



〈特集〉

新茶シーズン到来!

知ってみよう 静岡茶業と 掛川茶



静岡県の状況は

「静岡の茶草場農法」が世界農業遺産に認定されてから、ちょうど10年が経った令和5年。生産面では、山間地を中心に摘採面積が減少したことや、品質重視のみる芽摘採が行われたことにより、一番茶は前年の10,500tから14%減少の9,060tとなりました。生産後半で、量が増えなかったことから価格は下げ止まり、荒茶平均単価は前年比102%の1,955円/kgでした。産出額は、コロナ禍で過去最低となった令和2年の203億円から、令和3年は268億円に増加。しかし、令和4年は244億円と再び減少に転じました。同年の作物別産出額では、全国的な供給減によって単価高となったミカンが252億円となり、昭和50年以降で初めて茶を抜きました。

肥料や燃油など生産費の高騰もあり、得意先がない茶生産者の経営は

桜の季節が終わり、萌黄色に染まる掛川。
今年も新茶の季節がやってきました。
2024年は、掛川茶にとってどのような年になるでしょうか。掛川茶を取り巻く状況や、県の施策を共有し、一緒に考えてみませんか。

大変厳しい状況が続いています。

県が取り組む 令和6年の振興策

米国や欧州を中心とした、海外での健康志向の高まりや和食文化の広まりなどにより、緑茶の輸出は近年増加しています(令和元年比1.99倍)。県では、需要が拡大する輸出向け有機茶について、主要な産地で碾茶(てんちゃ)工場を中心とした拠点を図り、有機茶生産の拡大を重点的に支援します。令和6年度は国事業を活用し、新たに県内2工場で碾茶工場を整備する予定です。

Chaoi(チャオープンイノベーション)プロジェクト推進事業では、Chaoiフォーラム



新たな取り組みで掛川茶を発信

急須のある家が少なくなったといわれる昨今、掛川茶を広めるために必要なのは、お茶に触れる機会を増やすことではないでしょうか。今回は、今年新たに掛川茶文化を提案するお店をご紹介します。みなさんも掛川茶に触れてみませんか。

掛川市の玄関口、掛川駅前に
抹茶ブランドのお店がオープン！

matcha KIMIKURA

掛川駅フラッグシップストア

こだわりのラテやスイーツなどを楽しめる抹茶ブランドが、今年3月、掛川駅北口施設にオープンしました。玄関口である駅を「お茶のまち掛川」にふさわしい場所とするため、これまで駅周辺になかった茶を体験する場を提供します。1階では、看板商品の抹茶ラテやオリジナルドリンクなどが注文できるほか、物販商品などが陳列しています。頼んだ商品は、大きな窓と高い天井で解放感のある2階のイートインスペースでいただくことができます。



Voice

店長 石川裕紀子 さん

掛川では深蒸し煎茶が有名ですが、世界中でブームになっている抹茶を掛川でも広めたいと、「matcha KIMIKURA」の2号店をオープンしま

した。提供している飲み物にはオーガニック（有機）を使用しています。駅を利用する通勤、通学の方や旅行中の方などに、お茶の良さを広めていけたらと思います。



1 人気商品の抹茶ラテは、ラテ用にブレンドした有機抹茶を使い、相性バッチリのミルクを厳選しました。柔らかい飲みで、スッキリとした飲み口に仕上がっています。



育む

観光地や風景の中でくつろぎの空間を提供

茶和家木村園 「お茶旅」

構想2年、製作に約1年かけて、木村園初の実店舗として今年の2月、木造キャンピングトレーラー「お茶旅」は完成しました。釘を使わない伝統的な日本家屋風の作りになっていて、中に入ると3畳ほどの小上がりで外の景色を見ながらお

茶が楽しめます。3月20日には、粟ヶ岳の茶文字が見える茶草場農法ビューポイントで、初めての出店を行いました。今後は、景観の良い場所やイベント会場、公園などお茶の普及活動に取り組みま



Voice

代表取締役 木村徳彦 さん



景色を見ながらお茶を飲むと、いつもとは違う特別感があります。お茶を飲むことが良い印象となり、日常にも取り入れてもらえるとうれしく思います。



1 「抹茶ゼリーセット」 あんこが乗った自家製の抹茶ゼリーとお好みの茶葉のセット。丁寧に注がれた一煎目に湯冷ましがついています。

〈特集〉

掛川茶振興の キーワードとは

教えてくれるのは

掛川市産業経済部 お茶振興課
萩田佳宏 さん

Voice

掛川市は県内4位の農業産出額があり、その約25%をお茶で占めています。しかし、ピーク時に比べ3分の1に減少していて、市内の茶生産者数もここ10年で6割が経営をやめているという現状があります。

このような現状を有事と認識し、茶産地掛川の持続的な発展を目指して策定されたのが「掛川茶未来創造プロジェクト」で、もうすぐ2年を迎えます。プロジェクトの重要指標として、令和8年度に経営茶園面積を現状の1,114 haから1,000 ha、茶産出額を31億円から40億円とし、減少にブレーキをかけ掛川茶の持続に必要な生産量の確保と、収益性向上による生産者の経営安定化を目指しています。その施策として、生産、流通、消費を3本柱に、2024年度も積極的に取り組みます。

3つの柱

消費

他産地と差別化を図るための情報発信

茶の品質などを中心に情報発信してきたこれまでの方針を転換し、茶業に関わる人々の物語や茶の歴史にスポットを当てた情報を発信します。また、今年は、茶エンナーレの開催や掛川城開門30周年の事業でもお茶の情報発信が行われます。

☑ かけがわ茶エンナーレ2024
3回目となるアートとお茶の祭典。茶文化創造プロジェクトとして、茶会など様々なイベントを予定しています。

☑ 掛川城天守閣
開門30周年記念イベント
11月初旬、かけがわ茶エンナーレ2024と連携して、掛川城を舞台とした大茶会を実施します。

流通

持続可能な荒茶取引（茶業版フェアトレード）環境の整備

生産者が安心感と公平感を持って経営を持続的に行える環境を目指し、これまでに検討会を3回開催し、新茶期から取り組みをスタートします。生産者46件、茶商社30件が参加の意思表示をしています。（4月23日現在）

☑ 掛川茶フェアトレード
2024年版掛川茶フェアトレードとして、生産者と茶商社がパートナーシップによる計画生産の取り組みを推進し、持続可能な茶生産の実現を目指します。今後も議論を継続し、アップグレードを計ります。認証制度を創設し、消費者への周知を図ります。

生産

有機栽培の推進とスマート農業の実践

昨年4月には、オーガニックビレッジ宣言を行い、環境にやさしい有機農業を推進するとともに、好調な海外需要に対応する有機栽培茶の生産拡大を図ります。また、作業効率化のためスマート農業の取り組みを推進します。

☑ 有機栽培推進の支援
転換期間中の有機肥料などの資材購入費補助
☑ 気象センサーの活用
気象センサーを15箇所設置し、気温、湿度、照度など7項目を生産者自らがリアルタイムで把握。管理作業の効率化と高品質なお茶の生産につなげます。

ちよつと豆知識

オーガニックビレッジとは

国が定めた制度で、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んで取り組みを進める市町村のこと。令和5年度には93市町村がオーガニックビレッジ宣言をしました。